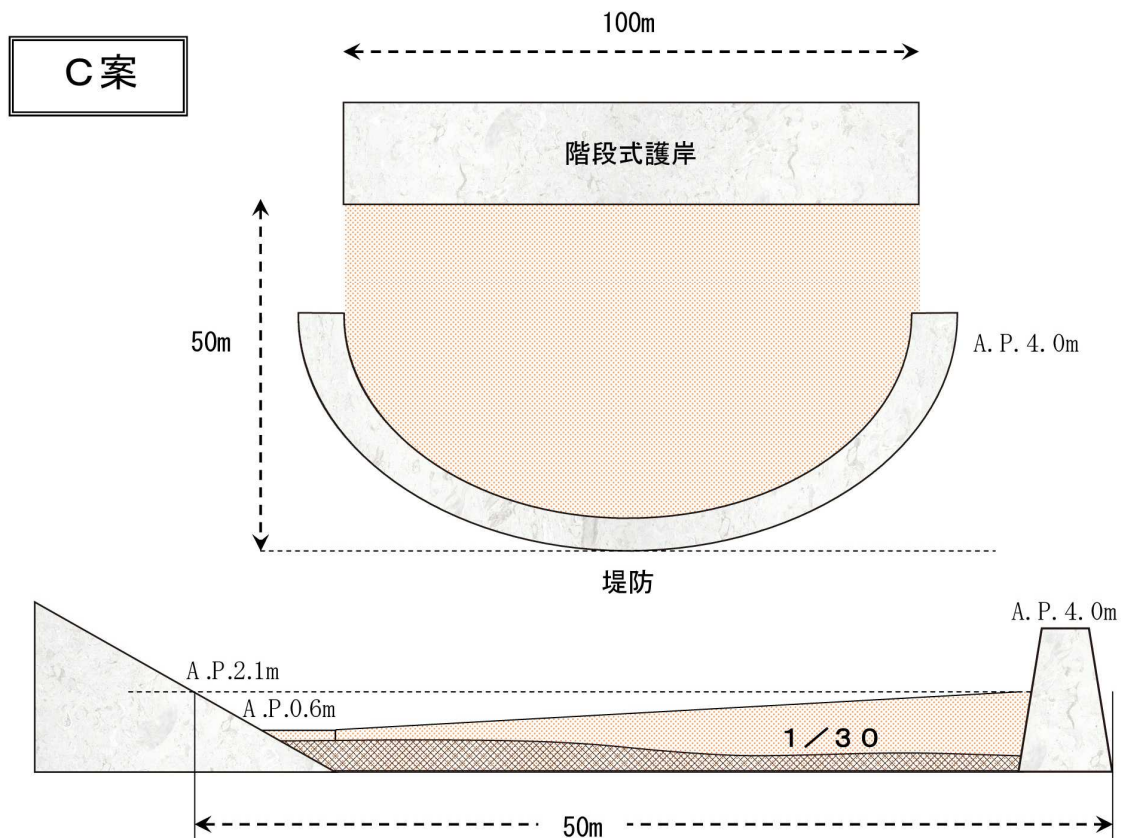
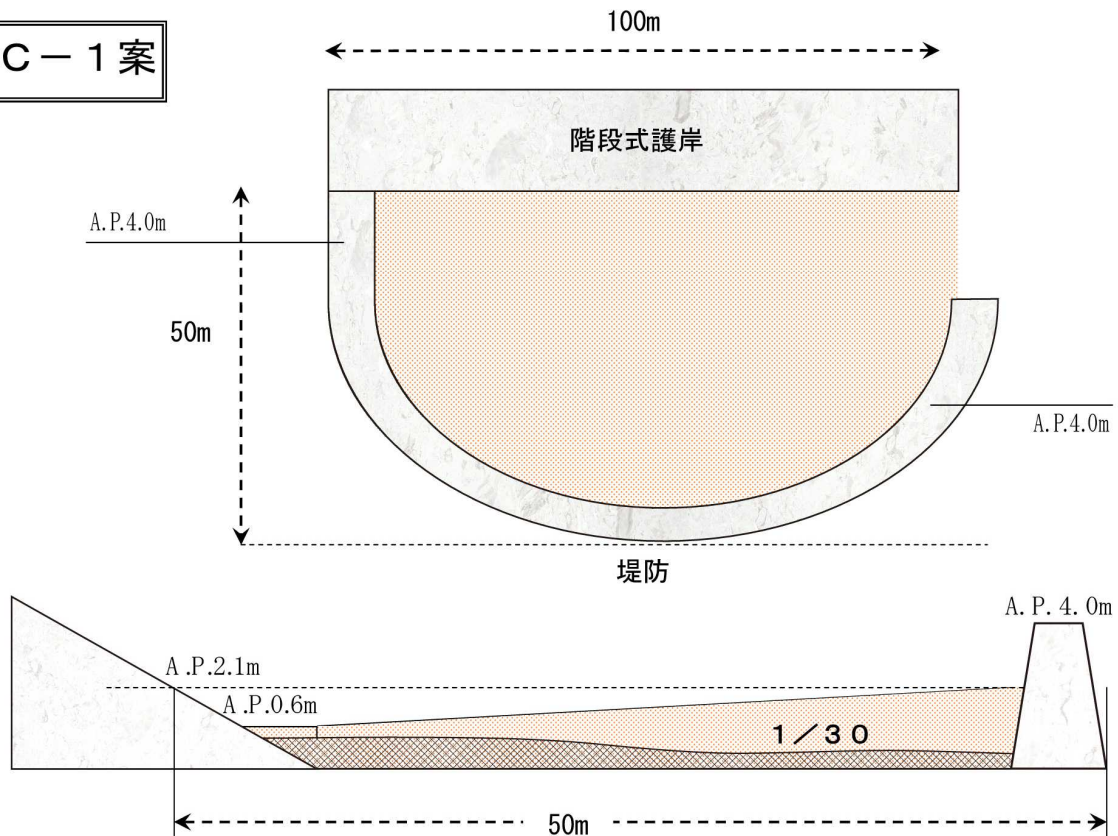


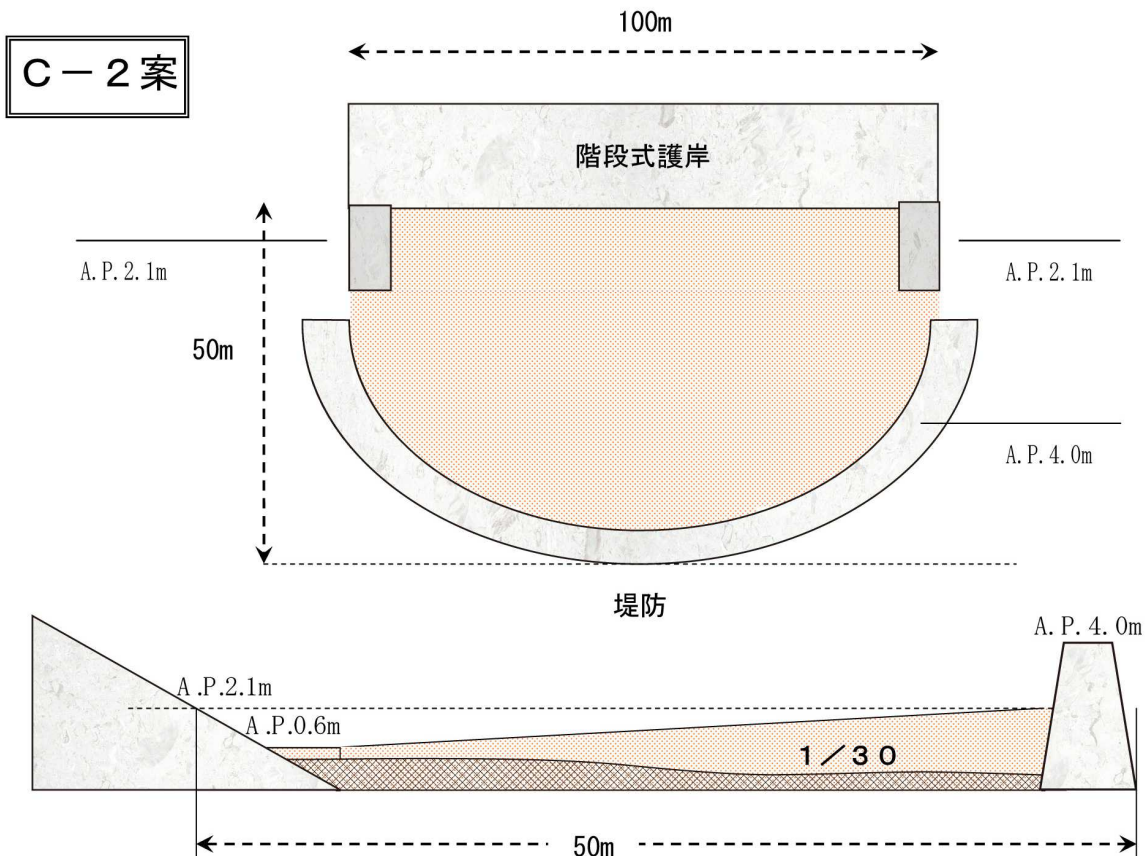


- ・ 前面からの波浪による影響を回避するために、半円形の堤防を陸側に開く形で干潟的環境の造成箇所を囲む。
- ・ 半円形の堤防は満潮時にも水没しない高さとする。
- ・ 造成箇所は満潮時に全て水没する程度の地盤高とする。
- ・ 砂泥の安定性では、A 案より砂泥の流出速度が遅くなる。
- ・ 満潮時には護岸と分断されることから、利用時間や利用方法は制限される。

C-1 案

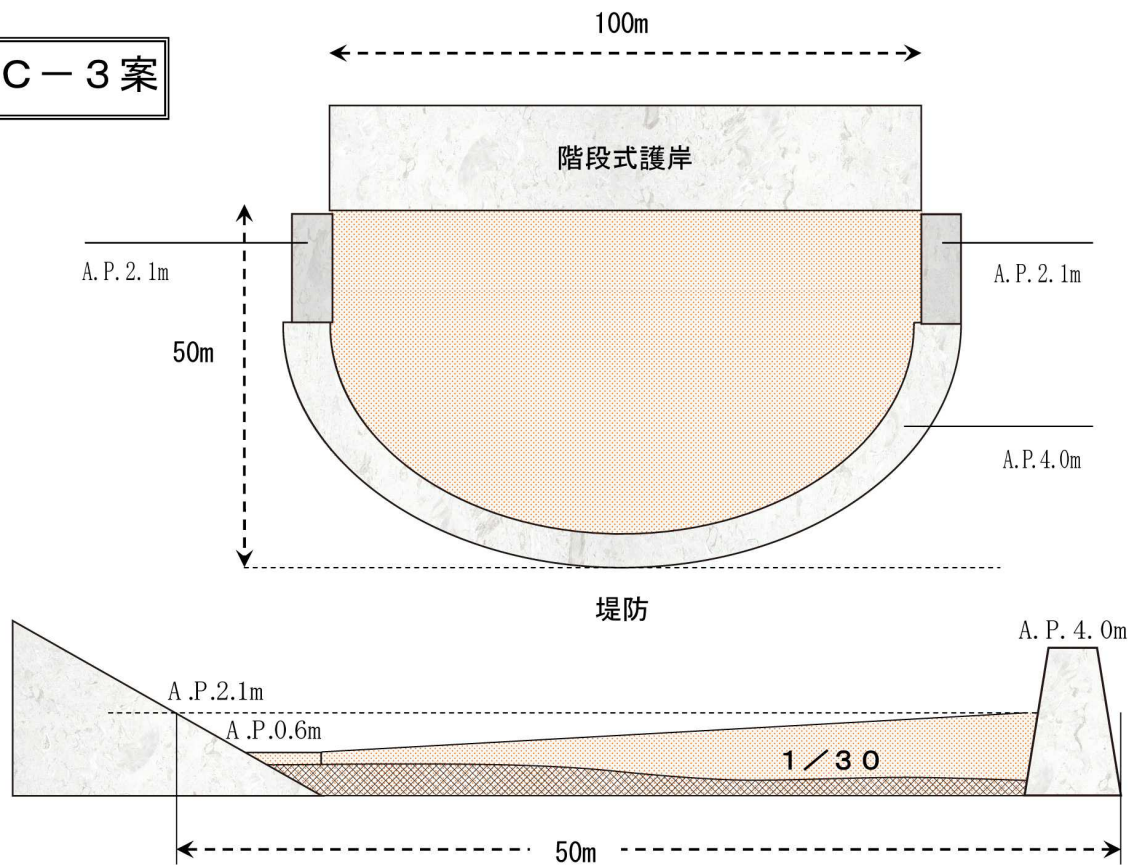


- ・ 前面からの波浪による影響を回避するため、半円形の堤防を陸側に開く形で干潟的環境の造成箇所を囲み、片側を階段式護岸とつなぐ。
- ・ 半円形の堤防は満潮時にも水没しない高さとする。
- ・ 造成箇所は満潮時に全て水没する程度の地盤高とする。
- ・ 堤防の片側を階段式護岸とつなぐことで、砂泥の流出方向と流出速度を遅らせ、内側に静穏域を確保することができる。

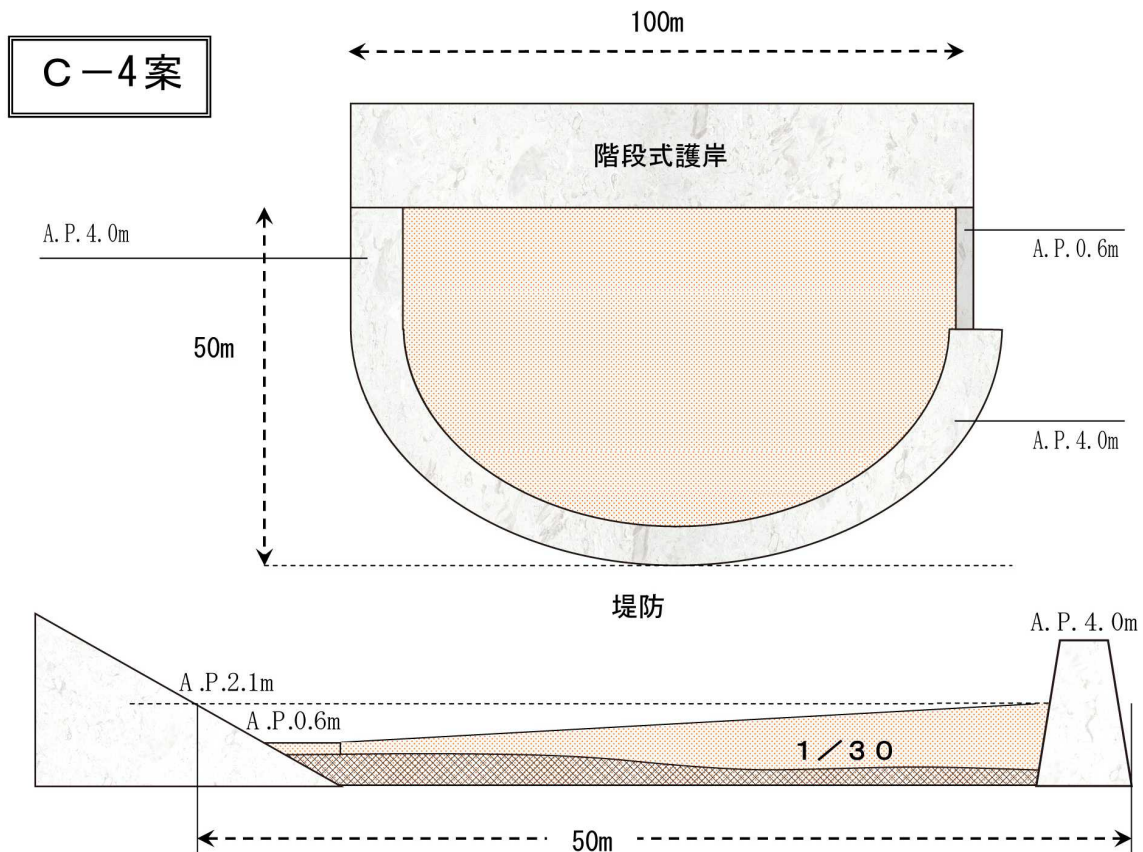


- ・半円形の堤防を陸側に開く形で干潟的環境の造成箇所を囲み、両側に砂止潜堤を設置する。堤防と砂止潜堤の間は水交換のため隙間をあける。
- ・堤防は満潮時にも水没しない高さとする。
- ・造成箇所は満潮時に全て水没する程度の地盤高とする。
- ・堤防の両側に砂止潜堤を設置することで、砂泥の流出を遅らせることが出来る他、水交換のための隙間があることで、干潟の水質低下防止、生物の往来の確保等を期待する。
- ・ただし、流路が狭いため、流路の速度が速くなる。
- ・流路周辺の砂泥が流出しやすく、部分的に安定度が低下する。
- ・護岸と直接つながっていないことから、利用時間が制限される。

C-3 案



- ・半円形の堤防を陸側に開く形で干潟的環境の造成箇所を囲み、両脇に砂止潜堤を設置する。堤防と砂止潜堤は、隙間なく設置する。
- ・堤防は満潮時にも水没しない程度の地盤高とする。
- ・造成箇所は満潮時に全て水没する程度の地盤高とする。
- ・堤防の両側に砂止潜堤を隙間なく設置することで、C-2 案よりもさらに砂泥の流出を遅らせることができる。



- ・半円形の堤防を陸側に開く形で干潟的環境の造成箇所を囲み、C-1 案をベースにさらなる砂泥の安定を確保するため、堤防の両側を堤防と仕切り板でつなぎ、砂泥の流出を少なくする構造とする。
- ・堤防は満潮時にも水没しない高さとする。造成箇所は満潮時に全て水没する程度の地盤高とし、護岸に沿って傾斜をつける。
- ・仕切り板は低く設定することで、水交換が可能であるため、干潟の水質低下防止、生物の往来の確保等の効果がある。